

6 3 6 1 - 1 3 1 8
平成 2 2 年 1 月 2 6 日

各関係機関長
各病害虫防除員 様

宮崎県病害虫防除・肥料検査センタ - 所長

平成 2 1 年度病害虫発生予察特殊報第 2 号について

平成 2 1 年度病害虫発生予察特殊報第 2 号を公表したので送付します。

平成 2 1 年度病害虫発生予察特殊報第 2 号

- 1 病害虫名：キク茎えそ病
- 2 発生作物：キク
- 3 病原ウイルス：*Chrysanthemum stem necrosis virus* (C S N V)

4 発生確認の経過

平成21年10月、県西部の施設キクで茎や葉にえそ症状を呈する病害が発生した。キクえそ病 (*Tomato spotted wilt virus*: T S W V) に酷似していたため、所管する農業改良普及センターにおいて簡易検定による診断を試みたが、T S W V は検出されなかった。そこで、宮崎県総合農業試験場生物環境部において R T - P C R 法により検定した結果、*Chrysanthemum stem necrosis virus* (C S N V) によるキク茎えそ病と確認された。

キク茎えそ病は、平成18年に広島県で初めて確認された後、西日本～関東を中心に確認されている(現在14県)。九州では、平成20年に熊本県、平成21年に鹿児島県で発生が報告されている。

5 病徴

茎に明瞭なえそ症状を生じ、葉柄基部に同症状が生じると葉が垂れ下がることもある。葉には退緑・えそ症状を生じる。T S W V (トマト黄化えそウイルス) によるキクえそ病に酷似しており病徴からの診断は難しい。ただし、遺伝子診断等により判別が可能である。

6 伝染方法

本ウイルスは、T S W V と同じトスポウイルス属のウイルスで、ミカンキイロアザミウマによって媒介される。海外では、*Frankliniella schultzei* が媒介することが報告されている。*Frankliniella schultzei* は、ミカンキイロアザミウマと同じ *Frankliniella* 属のアザミウマで、日本での発生は確認されていない。

ミカンキイロアザミウマは、孵化後間もない1齢幼虫が罹病植物を吸汁することでウイルスを獲得し、永続的に伝搬する。また、感染親株からの挿し穂等によっても伝染するが、種子伝染や土壌伝染はしないと考えられている。

永続伝搬：ウイルス媒介能力が、媒介虫の生存期間の長期間～一生持続する。

7 感染植物

感染が確認されている植物(農作物)はキク、トマト(本県では未確認)である。

8 防除対策

- 1) 媒介昆虫であるミカンキイロアザミウマを防除する。特に親株床への防除を徹底する。また、施設栽培では、ハウス開口部の防虫ネット被覆により媒介昆虫の侵入を防止する。
- 2) ほ場周辺やほ場内の雑草は媒介昆虫の発生源となるので必ず除草する。
- 3) 発病した株は伝染源となるので、直ちに抜き取り、土中に埋めるか焼却する。
- 4) 発生ほ場では、親株の感染も予想されるため、無病親株への更新を行う。
- 5) 施設栽培では、栽培終了時にハウスを密閉処理し、媒介昆虫が施設外に飛び出さないようにする。

9 その他

未発生地域で疑わしい症状が発生した場合は、最寄りの西臼杵支庁または各農林振興局（農業改良普及センター）、または病害虫防除・肥料検査センターに連絡する。



写真 茎や葉に現れたえそ症状

《連絡先》

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター 壹岐

TEL :0985-73-6670 FAX :0985-73-7499

E-mail : byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp

ホームページ : <http://www.jpnpn.ne.jp/miyazaki>